

目指す学校像	○自ら学ぶ生徒の育成 ○心豊かな生徒の育成 ○健康でたくましい生徒の育成 教職員が生徒一人ひとりに寄り添い、生徒どうしが互いに磨き合える、明るく活気のある学校を保護者や地域の方と いっしょにつくる
重点目標	1 主体的・対話的で深い学びの実現を目指す学習指導の充実 2 生徒と教職員との豊かな人間関係に支えられた生徒指導・教育相談の充実と安全な学習環境の整備 3 学校を核とした持続可能なスクール・コミュニティの構築 4 協力して明るく活気のある学校づくりを目指す力のある教職員の育成

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日令和6年2月16日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<p><現状> ○全国学力・学習状況調査において、学習への関心や意欲に係る質問に対する肯定的な回答の割合が国語、理科で全国平均を上回っている。 ○学校評価における「学習への満足感」に係る肯定的な回答の割合が上昇している。</p> <p><課題> ○さいたま市学習状況調査において、「自宅で自分で計画を立てて勉強している」に係る質問に対する肯定的な回答の割合が約5割にとどまっている。 ○学校評価における「宿題や復習等の取組」に係る質問に対する生徒の肯定的な回答が約7割にとどまっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びを目指す学習指導の充実 生徒の学習に対する不安感の解消及びICTを活用した望ましい家庭学習習慣の定着 	<p>①「三室中学校の授業づくり」と「学びのポイントじしゃく」を踏まえた授業改善 →管理職、教員同士による参観及び指導主事による要請訪問の実施</p> <p>②「三室中 GIGA スクール」「三室中読解力向上プラン」の推進による、教科横断的な学習や個別最適化された学習指導の充実 →研究推進委員会を開催し検討・改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会で御指摘いただいたように、学校評価「学習への満足感」に係る質問に対する肯定的な回答の割合が90%を超えることができたか。 ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業づくりに係る校内研修を実施することができたか。 学校評価「宿題や復習に自主的に取り組む」に係る質問に対する肯定的な回答の割合が増加することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価「学習への満足感」(生徒)に係る質問に対する肯定的な回答の割合は90%であり、目標をほぼ達成した。 指導主事を招聘し、「学びのポイントじしゃく」についての校内研修を実施して授業改善を図った。 本校特別支援教育コーディネーターによる「ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業づくり」に係る校内研修を実施し研究推進委員会を中心に推進を図った。 学校評価「宿題や復習に自主的に取り組む」(生徒)に係る質問に対する肯定的な回答の割合は前年70%から64%に減少した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「学びのポイントじしゃく」を踏まえた授業改善への意識は高まったが、「個別最適化された学習指導の充実」を一層推進する必要がある。 次年度は「ユニバーサルデザインとICTの効果的な活用による授業改善」を研究主題に設定し、より具体的な方策を用いて個別最適化された学びの充実に向けて研究していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の充実について、生徒や保護者のアイデアも取り入れながら改善を図っていくとよい。 GIGAスクール構想により学習端末を活用した授業が一層活発に展開されているが、その一方生徒の視力低下が懸念される。視力低下の予防対策について市教委の方針を確認し実施していったほしい。 従前より朝読書の習慣が定着している。国語力向上のためにも大切な取組であると考えられる。新しい施策が次々と入ってきて大変だが、このよき習慣は崩さないでほしい。
2	<p><現状> ○全国学力・学習状況調査及び市の学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」と回答する生徒は約9割に上昇している。 ○学校評価における「生徒や保護者からの相談を受ける体制」に係る質問に対する肯定的な回答の割合が約9割に上昇している。</p> <p><課題> ○コロナ禍で生徒の主体的な活動を促進し、エイジェンシーを育成する場が少なかった。 ○開校44年目を迎え、施設・設備に老朽化が目立つようになってきている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒と教職員との豊かな人間関係に支えられた生徒指導・教育相談の充実 施設管理の徹底による、安全で衛生的な学習環境の充実 	<p>①個別最適化された学習環境の整備及び関係機関との連携</p> <p>②「三室中いじめ防止基本方針」に基づきいじめ防止対策の推進</p> <p>③校則見直しプロジェクトを通じたエイジェンシーの育成(通年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価「生徒の悩みをしっかりと聞く」に係る質問に対する肯定的な回答の割合が増加することができたか。 学校評価「落ち着いてよい雰囲気」に係る質問に対する肯定的な回答の割合が増加することができたか。 優先順位の高い修繕希望箇所について着工への道筋をつけることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価「生徒の悩みをしっかりと聞く」(生徒)に係る質問に対する肯定的な回答の割合が前年93%から94.3%に増加した。 学校評価「落ち着いてよい雰囲気」(生徒)に係る質問に対する肯定的な回答の割合が前年85%から82.9%に減少した。 年度当初から修繕箇所に優先順位を付け、武道場の天井修繕、バスケットボールゴールを電動巻き式にて修繕、職員・来賓トイレのウォシュレット化、キュービクルの配線修繕を完了した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今日的な生徒指導・教育相談に対応するため全職員が生徒に寄り添う指導を心掛けている一方、校外での生徒の問題行動が多かった。 保護者との連絡を密に行うとともに、全校や学年集会等を通じて毅然としたガイダンスを行い、規範意識の向上に努める。 次年度体育館のエアコン設置工事が始まるため、円滑な施工と安全確保に努めるとともに、武道場のエアコン設置についても引き続き市へ要望していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 先生方が生徒に寄り添い、個々の悩みや相談事に丁寧に対応する体制ができています。生徒が先生を信頼している証であるが、三室中学校に長く在籍している先生が比較的多いことが影響していると考えられる。 来年度体育館のエアコン設置工事が始まるのはよかったです。引き続き武道場のエアコン設置についても市や市教委に要望したい。
3	<p><現状> ○昨年度学校運営協議会を立ち上げ、目指す生徒の姿を、家庭、地域、地元の企業などに広め、地域に集う全ての人々と共有できるようにすること、そのために学校の抱える課題について積極的に情報提供し、課題の解決に向けた方策について検討することを確認した。</p> <p><課題> ○コロナ禍において、地域行事への生徒の参加が難しい状況が続いていたため、これまで自粛していた行事の復活とともに、生徒を積極的に地域へと送り出し、地域に愛され、地域に貢献できる生徒を育成する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校HPや学校ICTを活用した教育活動に係る積極的な情報発信 持続可能なスクール・コミュニティの構築と地域連携の一層の推進 	<p>①地域に開かれた学校づくりの一層の推進 →学校だよりや学校HP、安心メールによる積極的な情報発信 →ゲストティーチャーによる地域の文化について学ぶ授業の実施</p> <p>②学校運営協議会を中心としたスクールコミュニティの形成 →地域の祭り、三室小150周年行事、その他地域行事への生徒ボランティア派遣</p> <p>③学校ファームを中心とした地域人材の活用 →地域の農家を指導者とした学校ファームの運営及び物販活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価における「情報公開」に係る質問に対する肯定的な回答の割合が増加することができたか。 学校評価における「地域との連携」に係る質問に対する肯定的な回答の割合が増加することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との情報配信アプリ「スクリレ」を新たに導入し紙媒体以外の連絡通信手段を獲得し好評を得ている。 学校評価における「情報公開」(保護者)に係る質問に対する肯定的な回答の割合が前年91%から93%に増加した。 「学校ファーム」をはじめ、「竜神祭」「みむろっ子祭り」「避難所設置訓練」「見沼田んぼキレイキレイ大作戦」等、地域と多くの交流を図ることができた。 学校評価における「地域との連携」(保護者)に係る質問に対する肯定的な回答の割合が前年91%から92%に増加した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 情報配信アプリ「スクリレ」の導入により、次年度紙の大幅な削減を図りたいが、保護者や地域のニーズや意見を把握した上で慎重に進めていく必要がある。 P.T.Aが時代の流れに沿った組織改編を行い、業務内容の大幅な削減を図った。その分、コミュニティスクールが学校を支える基盤を担う存在となるのが益々期待される。 学校運営協議会の人数増を図るとともに、より強固な協力体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> 竜神祭りへのボランティア参加に始まり、大変精力的に地域行事に参画してくれた。特に避難所設置訓練への参加は画期的で高齢化が進む現状に新たな風を吹きこみ、中学生が大変頼もしく思えた。 学校の教育方針が学校だよりによく表れており、それが実際によく体现されている。 スクリレの導入は大変有意義だった。今後個々の家庭に配慮しながら紙の配付と併せて検討していく必要がある。
4	<p><現状> ○ICTの優位性を生かした業務改善が進み、Teamsをはじめとする各種ツールを用いた情報の共有化、作業の簡略化が進んでいる。 ○研究推進委員会を月に3回程度のペースで実施し計画的、組織的に校内研修を進めている。</p> <p><課題> ○平均年齢が若い職員集団となっており、経験豊富な教員やICT活用スキルの高い教員に仕事が集中することがある。 ○年度末の事務処理作業に膨大な時間を要するため次年度の教育課程の綿密な計画・準備に充てる時間の確保が難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークライフバランスを重視した真の働き方改革の実現及びキャリアに応じた教職員研修受講の推進 	<p>①授業計画及び余剰授業時数の管理と教育課程の弾力的運用 →授業の進捗状況と余剰時間を確認後、年度末の事務処理従事時間を十分に確保</p> <p>②管理職・学年主任のマネジメントによる全職員のワークライフバランスの充実 →計画的年休の取得推進</p> <p>③キャリアステージに応じた教職員研修の受講を推奨 →当初面談によるキャリアの振り返り、自主研修一覧等の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業の進捗状況と余剰時間を計画的に管理し、年度末に十分な事務処理従事時間を確保することができたか。 職員の年休取得率を向上させることができたか。 職員の自主研修参加率を向上させることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の進捗状況と余剰時間を計画的に管理し、3月の第2週から午後の授業をカットすることにより十分な事務処理従事時間を確保することができた。 職員の一人当たりの年休取得率の平均が前年21.5%から29.2%に増加した。 キャリア振り返りシートを活用した年度当初面談の中で職員の研修受講を奨励し、管理研修、カウンセリング応用研修、次世代教育イノベーター研修等、多くの自主研修に職員を参加させることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した業務改善については本校は従前より先進的な取組を行ってきた。本年度はワークライフバランスに重点を置き、管理職主導で働き方改革を進め、数字上個々に成果がみられた。 次年度は、職員間の仕事の偏りを削減できるよう、業務の均衡化を図るとともに、学年内の協力体制や学年間の相互協力が一層図られるよう働きかけを行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した業務改善は必要だが、例えば保護者へのお知らせをなんでもかんでも「学校ホームページをご覧ください」のようにしてしまうと、かえって見るのが億劫になってしまう方も多いと思うので、よく吟味して進めていくことが大切である。